

叩(たた)き込まれた英語ですが

私は国語教師ですが、英語も好きです。国語の教員免許だけではなく、一応英語の免許も持っています。大学時代、本来なら国語に関する講義だけで十分でしたが、なぜか英語に関する講義をとっていました。

大きな声で言えませんが、一年二クラスの英語の授業を受け持つことになりました。病休の職員が復帰するまでの一学期の残り一週間だけです。教員生活最後の年に貴重な経験に恵まれました。がんばって楽しくやろうと思っています。

教科書を見てみると、昔とはずいぶん違います。それはそうですね。昔は「叩き込まれる」という印象の英語でしたが、今は「楽しく使ってみる」という感じです。必死さや暗さは、今の生徒たちにはありません。教科書にも華やかさがあります。今日授業に出向いた学級の生徒たちは、学んだ英語を仲間とのコミュニケーションの中で使うときに生き生きとしています。これからどんどん英語が難しくなっていくても、今日見せてくれた明るさと積極性は持ち続けて、英語の力を確実に付けてもらいたいものです。

楽しそうに仲間と英語で会話する生徒たちを見ていて、私は自分の過去にフラッシュバックしました。今の生徒たちのように楽しく、和気あいあいと英語を学ぶことはなかったのですが、私には英語が強く焼き付いています。

国語の教師になるなら、英語の免許は必ずしも必要なかったのですが、大学では、英語に関係する講義や英会話の特別授業まで取っていました。高校時代は、英語だけは毎日予習復習にかなりの時間を割いて取り組みました。中学の時は教科担の理不尽とも思える指示にも忠実に従って、必死に取り組みました。そこには、楽しい会話の活動も、ネイティブスピーカーの流暢な英語もありません。「英語って素敵だ」と思えるきっかけは何もありませんでしたが、なぜか英語を忘れず、ずっとここまですてて来てしまいました。

今から思うと、これは中学時代の英語の先生に英語の力を付けてもらったからだと思います。毎日ラジオ講座を聞いて本文を暗記するように指示されたり、右腕が鉛筆の黒鉛で鉛色に光るまで単語を描くように言われたりして、必死に英語を勉強する中で、基本的な力がついていったのでしよう。当然、自由自在に英語が使えるようにまではなりませんでしたが、中学卒業後、英語で苦勞したことはなかったように記憶しています。

英語で生きるかどうかは別として、英語の力を確実に付けさせるというところが大切だとしみじみ思いました。この年になっても英語に尻込みしない私を作ってくれたのは、私に英語を教えてくださった恩師です。今さらながら感謝したい気もちです。K先生S先生、ありがとうございます。(七月十二日 記)